

# 白菖蒲

松岡隆子

甘藍を転がる雨のひかりけり  
麦秋の野川に渡す板の橋  
あをあをと昏れかねてをる余り苗  
余り苗密なることを恃みとし  
見覚えの径や青蘆燦然と  
流れゆく川の迅さよ六月来  
川幅に波のかがやく桜桃忌

優曇華も草吹く風も透きとほる  
雨あとの丈を正して白菖蒲  
睡蓮の白の極みの翳りかな  
少年に矢車草の夕べくる  
真つ白な罌粟を見し夜の眠りかな

本部例会をはじめ各句会も休会が続き皆さんに会えなくなって久しい。こういう時こそ「葉」を遅刊なくお届けしなければと思う。幸い本号も順調に発行できそうだ。コロナ禍のなか編集や発送の皆さんには今までにない苦勞をかけている。校正もPCメールやファックス通信によるリモートワークとなり、校了は木内編集長と私の二人で行っている。木内さんとは家が近く徒歩10分足らずで行き来できるのは有難い。本号がお手元に届くのは梅雨明けが待たれるころであろうか。梅雨入り前から早々と凌霄花が咲きだし驚いている。